

■平成27年度

教育総務部 教育総務課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output・input】		成果分析【outcome】	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容		
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまでに)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	目標達成のための具体的方法 (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)		(目標達成のために 行った取組・行動)
1	教育総務課	統合に伴い閉校する境町小、黒川小、金沢小における閉校式典の実施	B	該当校における児童、保護者を含む地域住民の皆さんが深く心に残る式典の開催	開催日など白紙の状態	平成28年3月末まで	永く地域におけるシンボルとして存在した小学校が閉校されることに伴い、長年親しんだ学び舎に感謝の気持ちを表し、これまで育んできたさまざまな思い出が児童や地域の方々の心の中に深く刻まれる式典とするもの。	・5月 対象校に対する説明 希望期日の取りまとめ 実行委員会の発足 ・11月 案内者の確定 ・12月 案内状の送付 ・2月 閉校式典 ・通年 該当校や実行委員会との協議	・5月 対象校に対する説明 希望期日の取りまとめ 実行委員会の発足 ・9月 案内者の確定 ・随時 該当校や実行委員会との協議	・10月 案内状の送付 ・11月 案内者の取りまとめ ・12月 5日(土)境町小閉校式典 12日(土)黒川小閉校式典 19日(土)金沢小閉校式典 ・随時 該当校や実行委員会との協議	・12月 5日(土)境町小閉校式典 12日(土)黒川小閉校式典 19日(土)金沢小閉校式典	・5月 対象校に対する説明 希望期日の取りまとめ 実行委員会の発足 ・9月 案内者の確定 ・11月 案内者の取りまとめ ・随時 該当校や実行委員会との協議	永く地域におけるシンボルとして存在した小学校が閉校されることに伴い、長年親しんだ学び舎に感謝の気持ちを表し、これまで育んできたさまざまな思い出が児童や地域の方々の心の中に深く刻まれる式典とすることができた。
2	教育総務課	老朽化が進む学校を計画的に整備するための長寿命化計画の策定	A	学校施設の長寿命化を図るための計画策定	なし	平成28年3月末まで	昭和40年代後半から50年代にかけて建築され、その後30年を超えて傷みが激しい学校における長寿命化計画の策定。子どもたちにとって公平で良好、安心安全な学校とするもの。	・5月 策定委員の選任等 各学校の目視確認ほか ・6月 策定委員会の発足 協議開始 ・3月 長寿命化計画の策定	・5月 各校の目視確認ほか調査中 ・7月 素案の検討開始	・11月 策定委員会の発足 協議開始 ・3月 長寿命化計画の策定	・3月 長寿命化計画を策定	・5月 各校の目視確認ほか調査 ・7月 素案の検討開始	昭和40年代後半から50年代にかけて建築され、その後30年を超えて傷みが激しい学校における長寿命化計画を策定。国の長寿命化事業を実施するにはこれが必要であり、来年度はこれに伴う実施計画を策定し、安心安全な学校整備を図っていく。
3	教育総務課	横手地区小学校統合事業である横手北小学校の建設と開校(平成28年4月開校予定、境町小・黒川小・金沢小の統合校)	A	①建設工事 ②開校準備 ③事業内容の説明(PTA、住民)	①②③ 前年度より継続実施	平成28年3月末まで	①校舎等工事完成を目指す ②教育課程編成など開校に必要な諸準備を終えるもの。 ③開校準備の進捗状況を説明して理解を得るもの。	①校舎等の建設工事 H26/8月に校舎等建設工事請負契約締結済み ②開校準備委員会において協議 H26/6月に設置、随時実施中 ③PTA、住民に対しての説明会を随時開催	・9月末時点 工事進捗率約6割 ・6月 開校準備委員会を開催 ・4月、7月、8月 保護者説明会を開催	・3月 工事完成 ・11月 開校準備委員会を開催 ・12月、2月 保護者説明会を開催 ・1月 住民に対し開校準備状況のチラシを配布	①建設工事 3月7日 建設工事完成 3月11日 校舎引渡 ②開校準備 6月1日、11月18日 開校準備委員会 11月 校歌完成 ③進捗状況の説明(PTA、保護者) 説明会 4.7.8.12月 計17回 8月30日 未就学児童の説明会 2月11日 入校・入学説明会	①建設工事に関する打合せを定期的に行い、工事内容・進捗状況等を監督した。 ②関係各校と連絡調整のうえ開校準備委員会を開催し、開校に向けた諸準備を行った。 ③関係小学校児童、未就学児童の保護者に対し、進捗状況の説明を行った。	工期内に建設工事が完成し、滞りなく開校準備を進めるとともに、保護者の理解が得られ、平成28年4月1日の開校を迎える運びとなった。
4	教育総務課	山内中学校統合事業の準備(平成30年4月統合予定、山内中を横手南中に編入)	B	住民やPTAなどに対する情報提供	統合に対する理解は得ている。	平成28年3月末まで	統合準備の進捗状況を説明し、スムーズな統合を目指すもの。	・住民やPTAなどに対する説明会を随時開催 ・必要に応じてチラシの全戸配布による周知	・4月 地域住民向けチラシを全戸配布 ・7月 山内小学校PTAにて保護者への説明	・11月 山内地区区長会にて説明	・9月29日 スクールバス運用協議 ・11月18日 区長連絡会議で説明	・区長連絡協議会では、スクールバス運用の検討状況や、山内中学校主導による統合へ向けた取り組みなどの説明を行った。	・平成28年度から女子制服を横手南中学校仕様に変更することや横手南中学校との交流活動等、山内中学校の主導により統合に向けた諸準備に取り掛かっている。
5	教育総務課	十文字地域小学校統合事業の推進(平成33年度までに統合予定、十文字第一小・十文字第二小・植田小・睦合小の統合校)	A	①用地選定・農振除外協議 ②敷地造成測量設計 ③地質・物件調査 ④基本・実施設計 ⑤住民・PTA説明	①③つのエリアが候補地となっている。 ②未実施 ③未実施 ④未実施 ⑤統合に対する理解は得ている。	平成28年3月末まで	①候補地から用地を選定 ②③業務委託の実施・完了 ④基本設計の実施・完了 ⑤統合に関する進捗状況を説明し、理解を深めるもの。	①用地交渉及び農振除外に伴う関係部署との協議 ②敷地造成測量設計業務委託発注 ③地質・物件調査業務委託発注 ④基本・実施設計業務委託発注 ⑤住民・PTA説明会において説明、全戸配布による周知	・4月 地域住民向けチラシを全戸配布 ・4月～ 候補地の検討、関係者への説明 ・6月 農振除外方法の変更確認、旧統合検討委員会への状況説明 ・8月 十文字西地区住民説明会	・10月 十文字地域住民説明会(一小学区、二小学区、西地区) ・農振除外方法の変更により、平成28年度以降でも農振除外が可能となったことから、第2次総合計画に位置付け財政計画調整を行い、平成28年度の事業スタートを目指し、今後、理解を得ていく。	・10月13日 一小学区住民説明会 ・10月15日 二小学区住民説明会 ・10月21日 西地区住民説明会 ・11月19日 新旧統合検討委員意見聴取会	・年度途中で、事業スタートが平成28年度に変更となったこともあり、3つの候補地エリアのほか第一小学校周辺変更が出され、下半期に再度、建設地の検討を行った。	・これまでに実施した説明会や意見聴取会の内容を踏まえ、建設地を「十文字中学校周辺」に決定し、平成33年度の開校に向け、平成28年度より事業着手することになった。

■平成27年度

教育総務部 文化財保護課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況(output・input)		成果分析【outcome】 (目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)	
				目標指標の内容 (何を)	目標の基準値 (目標設定時の状態・比較実績)	目標達成時期 (いつまでに)	目標値 (どの水準までどうする・達成後の状態)	目標達成のための具体的方法 (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値 (目標の達成状況・現在の状態)		②取組・行動内容 (目標達成のために 行った取組・行動)
									上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)			
1	文化財保護課	後三年合戦関連遺跡の調査	A	<p>国指定史跡へ向けた金沢枡推定地(金沢城跡)の内容説明</p> <p>・陣館遺跡の頂上平場で、国史跡大鳥井山遺跡と類似した格式の高い四面庇付掘立柱建物跡が確認された。</p> <p>・陣館遺跡の斜面部では、建物跡に続く道路跡と補修跡の「波板状凹凸」が確認された。</p>	年度末	<p>・金沢枡推定地の金沢城跡西の丸(安本館)において、昭和40年代に試掘調査で確認された庇付掘立柱建物跡の再調査と構築時期などの検証を行い、金沢枡の特定を目指す。</p>	<p>・金沢城跡西の丸(安本館)遺跡発掘調査(5月～9月)</p> <p>・金沢城跡西の丸(安本館)遺跡発掘調査(6/15～10月中旬) 500基以上の柱穴と白磁硯皿等を確認</p> <p>・発掘調査現地説明会の開催(8月)</p> <p>・発掘調査現地説明会(9/26) 100名参加</p> <p>・発掘調査に係る後三年合戦等史跡検討委員会による現地指導(9/17)</p>	<p>■課題 建物跡遺構の確実な把握と検証</p> <p>■取組予定: ・発掘調査報告書の刊行(3月) ・後三年合戦等関連遺跡整備指導委員会・検討会の開催(3月)</p>	<p>・金沢城跡西の丸(安本館)発掘調査(6月15日～10月26日)調査面積140㎡ ・文化庁調査官現地指導(9月9日) ・後三年合戦史跡検討会(9月17日) ・金沢城跡発掘調査現地説明会(9月26日)100名参加 ・後三年合戦史跡整備指導委員会・検討会の開催(3月16日)</p> <p>発掘調査前に地権者宅を訪問して協力をお願いするとともに、丁寧な説明を心がけた。</p>	<p>・確認された建物跡の内1棟は、四面に庇を持つと想定される梁行3間×桁行3間を身倉とする掘立柱建物跡で、陣館遺跡で確認された四面庇付掘立柱建物跡と同規模である。立地からみると大鳥井山遺跡の四面庇付掘立柱建物跡との共通点がある。今後十分な検証をし、阿弥陀堂の可能性も含めて時期の検討を進める。</p> <p>・陣館遺跡総括報告書の刊行</p>			
2	文化財保護課	後三年合戦素材の普及活動	A	<p>まちづくりの財産としての後三年合戦と合戦関連遺跡の活用</p> <p>26年度実績 ①沼柵公開講座 参加人数:160人 ②後三年合戦シンポジウム 参加人数:220人(25年度) ③金沢枡公開講座 参加人数:230人</p>	年度末	<p>○後三年合戦に関わる公開講座等を開催し、最新の研究動向や発掘調査の成果の報告、発表を行う。</p> <p>①沼柵公開講座(7月) 会場 雄物川コミュニティセンター 内容 基調講演 発表 座談会 郷土資料館との運動 ②後三年合戦シンポジウム(10月) 会場 市役所東里南庁舎講堂 内容 基調講演 討議 2日間にわたって開催 ③金沢枡公開講座(3月) 会場 美郷町まなびおん美郷 内容 基調講演 座談会 パスの現地見学を併催</p> <p>・研究者との情報交流を通し、最新の研究成果を交換しあう。</p> <p>上記のほか後三年合戦関連の地域イベント、講演依頼等へ対応する。</p>	<p>①沼柵公開講座(8/2) 会場 雄物川コミュニティセンター 雄物川郷土資料館 内容「清原氏と平安のかがみ-秋田県の鏡と後三年合戦-」参加者213人 報告1本、講演1本、座談会1本、討議1本 ②後三年合戦シンポジウム(12/19-20) 会場 市役所南庁舎講堂 内容 報告1本、基調講演2本、特別講演1本、シンポジウム1本、討議1本、講演2本、基調講演1本、討議1本 ③金沢枡公開講座(3月) 会場 美郷町まなびおん美郷 内容 報告2本 基調講演2本、特別講演2本</p> <p>・秋田県都市監査委員講演(4/16) ・平鹿中学校講演(5/11) ・朝倉小学校大鳥井山遺跡解説(5/27) ・放送大学秋田校講演(6/19) ・美郷町観光ガイド講習(6/29) ・平泉小学校・大雄小学校児童交流会(7/30-31) ・青山学院大学考古学実習(8/5～12)</p>	<p>■課題 後三年合戦関連遺跡の活用と普及</p> <p>■取組予定 ②後三年合戦シンポジウム 会場 市役所南庁舎講堂 内容 「歴史まちづくりと都市計画」 ③金沢枡公開講座(3月) 会場 美郷町まなびおん美郷 内容 報告2本 基調講演2本、特別講演2本</p> <p>・後三年合戦関連講演依頼等への協力</p>	<p>①沼柵公開講座「清原氏と平安のかがみ」秋田県の鏡と後三年合戦」日時 8月2日 会場 雄物川コミュニティセンター 人数 213人 内容 報告1本、講演1本、座談会1本、討議1本 ②後三年合戦シンポジウム「まちを作った先人と史跡を活用したまちづくり」日時 12月19日・20日 会場 横手市東里南庁舎講堂 人数 300人 内容 報告1本、基調講演2本、特別講演1本、シンポジウム1本、討議1本、講演2本、基調講演1本、討議1本 ③金沢枡公開講座「続縄文土器・古代の山城・後三年合戦」日時 3月12日 会場 美郷町まなびおん美郷 人数 280人 内容 報告2本 基調講演2本、特別講演2本 ③関連 後三年合戦金沢枡資料館特別展「清原時代のほとけたち-黒仏と観音十二神符-」シャトルバス巡回 人数79人 ・青山学院大学考古学実習(8/5～12) ・秋田県都市監査委員講演等計12回</p>	<p>・公開講座やシンポジウムは、2日間にわたる開催や資料館事業とのタイアップで実施するなど工夫をこらし、目標の基準値を大きく上回り、目標値とほぼ同数の793人の来場者があった。後三年合戦に関する史跡への関心の高まりを感じさせた。最新の研究動向や発掘調査で明らかになった成果を報告することで、新聞各紙にも大きく取り上げられ情報発信についても成果があった。</p> <p>・歴史とまちづくりの観点から、史跡の活用で成果を上げている弘前市、小田原市からの基調講演は今後の横手市の歴史まちづくりにおいて、とても参考になる内容であった。</p> <p>・ホームページや市報、FMラジオ等で開催の周知を行った。また、後三年合戦関連の地域イベントや講演依頼等についても協力した。</p>			
3	文化財保護課	増田地区伝統的建造物群保存対策事業	A	<p>25年末に重伝建に選定された増田地区の街並み整備を行政と住民で進める。</p> <p>・詳細調査の完了 ・防災計画策定の準備 ・復元・修景・修繕の対応 ・都市計画課等との連携</p>	年度末	<p>・詳細調査を基に国に提出するレベルの報告書を完成する。</p> <p>・防災計画策定のための事前調査を終了し報告書を完成する。</p> <p>・改修等申請への対応は、基準に沿った指導と許可を実施する。</p> <p>・都市計画課の事業について、文化的価値を損なわないよう協議する。</p> <p>・現地調査と同行し、研究機関と住民の調整など効果的なサポートを行う。</p> <p>・防災計画策定委員会を適切な時期に開催し運営する。</p> <p>・改修等申請への適切な指導と許可等の作業を行う。</p>	<p>・詳細調査 奈良文化財研究所による調査 5/12～5/15、7/28～7/31 ・防災計画策定委員会 7/24 地域住民との懇談会 7/25 第四回委員会 ・現状変更 4月～9月 14件許可 ・都市計画課の街並み環境整備事業で行う調査登録有形文化財「旧杏華堂石田医院座敷蔵」の修復について協議を実施</p>	<p>■課題 詳細調査のとりのまとめ 防災計画策定のための防災対策のとりのまとめ 「旧杏華堂石田医院座敷蔵」修復事業完了</p> <p>■取組予定: ・詳細調査報告書の発行(3月) ・防災対策調査とりのまとめ(3月) 「旧杏華堂石田医院座敷蔵」修復事業完了(11月)</p>	<p>・増田伝統的建築物詳細調査完了し報告書を取りまとめた。</p> <p>・防災計画策定のための防災対策についてとりまとめを終了し、計画案について了承された。</p> <p>・「旧杏華堂石田医院座敷蔵」修復事業が完了し、完了書を提出した。</p>	<p>・奈良文化財研究所より4回(6月・7月・11月・2月)に現地調査を行い3月に報告書を取りまとめた。</p> <p>・歴史まちづくり課と連携し、3回(7月・10月・3月)に防災計画策定委員会を開催し、調査結果と計画の内容の検討を行った。</p> <p>・都市計画課及び建築住宅課と連携し、異文化財保護室の指導を受けながら、修復を行った。</p>	<p>・詳細調査を行うことで主要な2つの建物についてその価値を明らかにすることができ、今後の管理等の在り方を検討する基礎ができた。</p> <p>・外壁等の延焼性能試験を平成28年度に行い、その結果を含め地区の防災計画を決定し、具体的な防災事業に取り掛かることができるようになった。</p> <p>「旧杏華堂石田医院座敷蔵」の文化的価値を損なうことなく、当初の状態に近づける修復ができ、増田地区の入り口のランドマークとして親しまれることが期待でき</p>		
4	文化財保護課	「横手を学ぶ郷土学」の創設	A	<p>小中学生が、横手市全体の歴史・文化・伝統を総合的に学ぶことができる体制を作る。</p>	年度末	<p>・全市を対象とする「横手を学ぶ郷土学」の進め方を示す指導計画を制作する。</p> <p>・「横手を学ぶ郷土学」創設のための検討会を設置し運営する。</p> <p>・教職員、市職員によるのべ14人程度の先進地視察を実施する。</p> <p>・教職員の研修会を開催する。</p>	<p>・検討会 4/21 第一回検討会 教育長、教育指導部長、教育指導課、文化財保護課、教員参加 関連事業 後三年合戦勉強会 平鹿中学校講演(5/11) 平泉小学校・大雄小学校児童交流会(7/30-31)</p>	<p>■課題 ・来年度のテキスト制作のために、構成を決定し、資料・素材を収集</p> <p>■取組予定: ・検討会の開催 ・素材・資料の収集</p>	<p>・検討会を開き今後の方針を決めた。</p> <p>・後三年合戦関連の勉強会を開いた。テキストに掲載される文化財の一覧案の作成と文化財写真の収集を行った。</p>	<p>平成28年度からの事業の方向性を決め、総合テキスト作成について着手した。</p> <p>平成28年度からのスムーズな事業展開の準備ができた。</p>			

■平成27年度

教育総務部 図書館課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output・input】		成果分析【outcome】	
				目標指標の内容 (何を)	目標の基準値 (目標設定時の状態・比較実績)	目標達成時期 (いつまでに)	目標値 (どの水準までどうする・達成後の状態)	目標達成のための具体的方法 (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	【現 状】 上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	【ギャップと対策】 下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	①達成値・実績値 (目標の達成状況・ 現在の状態)	②取組・行動内容 (目標達成のために 行った取組・行動)	③目標達成による成果 (目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
				1	図書館課	読書等に関する政策立案・他機関との連携を積極的に、幼児から高齢者まで幅広い市民の「読む・知る」を支援できる体制をつくる。	A	中央図書館の名称を一本化されていた。政策立案を担う図書館課(行政機関)と図書館の業務分担を明確にし、次の事業計画の策地をつくる。	子どもを対象に、平成26年4月「子ども読書活動推進計画」スタートさせているが、「本に関わる施策」=「本を持っている図書館」と誤認され、様々な部所との協力が得にくい。	年度末まで	平成28年度予算要求時まで ・図書館課と図書館の業務分担の見直し ・「読書支援センター」の設立準備	・業務の分担の見直しはほぼ終了 人員配置と事務スペース両方の不足を補うため、一部図書館業務を図書館課に残す。担当館以外の館での執務等を余儀なく行っている。 ・読書支援センター設立 内部検討中	・読書支援センター設立について 10月政策会議に提案 H28.1月設立準備スタート H28.4月センター運用開始
2	図書館課	市民読書活動推進の啓発	A	市民読書習慣の拡大のためのロードマップとなりうる宣言・計画等の作成検討	全年代の市民を対象にしたものはない。 (子どもの読書活動は周囲の大人の読書習慣の影響も大きい。)	平成27年7月	作成文書の種類を決定する。	6月 図書館協議会で意見を拝聴する。 7月 種類決定、 以後のタイムスケジュール作成 素案作成開始	内部検討用素案作成中	11月図書館協議会へ郵送にて意見徴収	・次年度以降に再検討	・複数案を作成	・想定外の他事業(増田図書館移転)により作業が遅れ年度内に図書館協議会の意見聴取ができなかった。 ・新年度からスタートする市の総合計画を勘案し、先ずは課内で再検討する。
3	図書館課	学校図書館支援の拡充	B	学校司書の資質向上 中学校支援の強化	・学校司書対象県立図書館出前研修 年1回 ・中学校への定期団体貸出 2館2校	年度末まで	・市独自の学校司書研修会 4回 ・中学校への定期団体貸出 4館4校	・学校司書研修 5月 学校及び図書館と調整、日程決定 6月 学校司書へのアンケート実施 により研修項目決定 ・中学校支援 4月 明峰中・山内中に提案 5～6月 1回目貸出実施	・学校司書研修 教育指導係と内容を検討 (アンケート中止) ・中学校支援開始 北中 明峰中・山内中配本開始 (5館6校実施)	・学校司書研修 1回目 11月 2,3回目 1～2月	・学校司書研修3回実施 (11/6, 11/18, 1/18) ・中学校支援(5館で対応) 平鹿中、増田中、北中、明峰中、山内中の5校実施	・教育指導課と研修内容を検討し、市立図書館主催による研修を2回、県立図書館の出前研修を1回実施した。 ・昨年度配本を開始した平鹿中・増田中の支援内容を説明し、配本を開始した。	・今年度より、横手市内の小中学校全てに業務も含め学校図書館司書が配置されたことにより、学校図書館司書研修を実施したこと共通の認識で業務を行い、司書同士の連携が強化され、児童・生徒の図書に対する関心を高めるような学校図書館づくりの支援が出来た。
4	全図書館共通	多くの「知る」に応えられる資料収集	A	全館で協力し、出来る限り偏りのない、広い分野の図書の収集を目指す	H28年度、資料収集方針を見直しH27年度4月1日新方針スタート	通年	選書時には常に収集方針を念頭に置き、図書館員の日常の話題となる意識を全員が持つ。	・各館の蔵書状況を踏まえた選定を基に、定期的に選定会議を開催 ・選定会議における議論を、その後の各館の選書に活かすため、職員会議等での報告や情報共有の実施 ・分類毎の受入計画は未作成、各館の受入れ計画は作成	10月中 上半期の受入れ状況を基に、下半期の具体的な購入計画の作成 ・分類ごと予算配分目安の作成 1月上旬 進捗状況を確認し、偏りのない広い分野の図書収集実現	・重点資料や利用者層により各館ごとに偏りをなくすることは困難であるが、市立図書館全体として捉え、分類ごとの割合を最終的に確認した。	・データの確認 ・複本の減少 偏りのない選書の心掛け	・市立図書館として、万遍なく所蔵することで市民の方々のあらゆる要望に応える事が出来る。 ・今後も継続し、精査しながら広い分野の収集に心掛ける。 ・経済・哲学・心理・産業等今まで少なかった分野の蔵書が増え非常に良いとの利用者の声も多い。	
5	横手図書館	図書館貴重資料デジタル化	A	「週刊新聞たいまつ」のデジタル画像による保存事業の承認	紙の劣化が激しく、閲覧や複写要請に応えることが難しくなりつつある。	年度末まで	全刊データ化し、館内の閲覧複写には原本を使用しない体制をとる。	4月中 政策会議へ提出承認された場合 7月～9月発行者との協議 1月～3月撮影 3月末納品 平成28年4月デジタルデータによる資料提供開始	6月補正予算化 7月発行者との協議 8月4日委託業者との契約締結 9月撮影開始	10月中 著作権に関する承諾書作成 2月中 デジタルデータ納入	・1月デジタルデータ納入 ・2月閲覧用タブレット端末納入 ・予定通り4月2日公開できる。	・事業を始めるにあたり、著作者との交渉 ・予算化のため財政と協議 ・運用のため情報政策と協議 ・各関連部署等と連携し実施した。	・国立国会図書館や県立図書館においても全号が揃っていないため、今後研究者たちには、大変貴重な資料となる。 ・市民にとっても戦後から30年の歩みや、広告にある当時の商業や、横手における文芸などを知る事の出来る資料となる。 ・心の氏関連のTV特集等全国的報道される機会があり横手市のアピールにも貢献できた。